

個人投資家の皆様へ 三井物産会社説明会



2022年12月
三井物産株式会社 IR部
証券コード:8031

目次

1

会社概要

2

三井物産のビジネスモデルと強み

3

業績および株主還元方針

4

成長戦略

5

当地における取り組み

1

会社概要

2

三井物産のビジネスモデルと強み

3

業績および株主還元方針

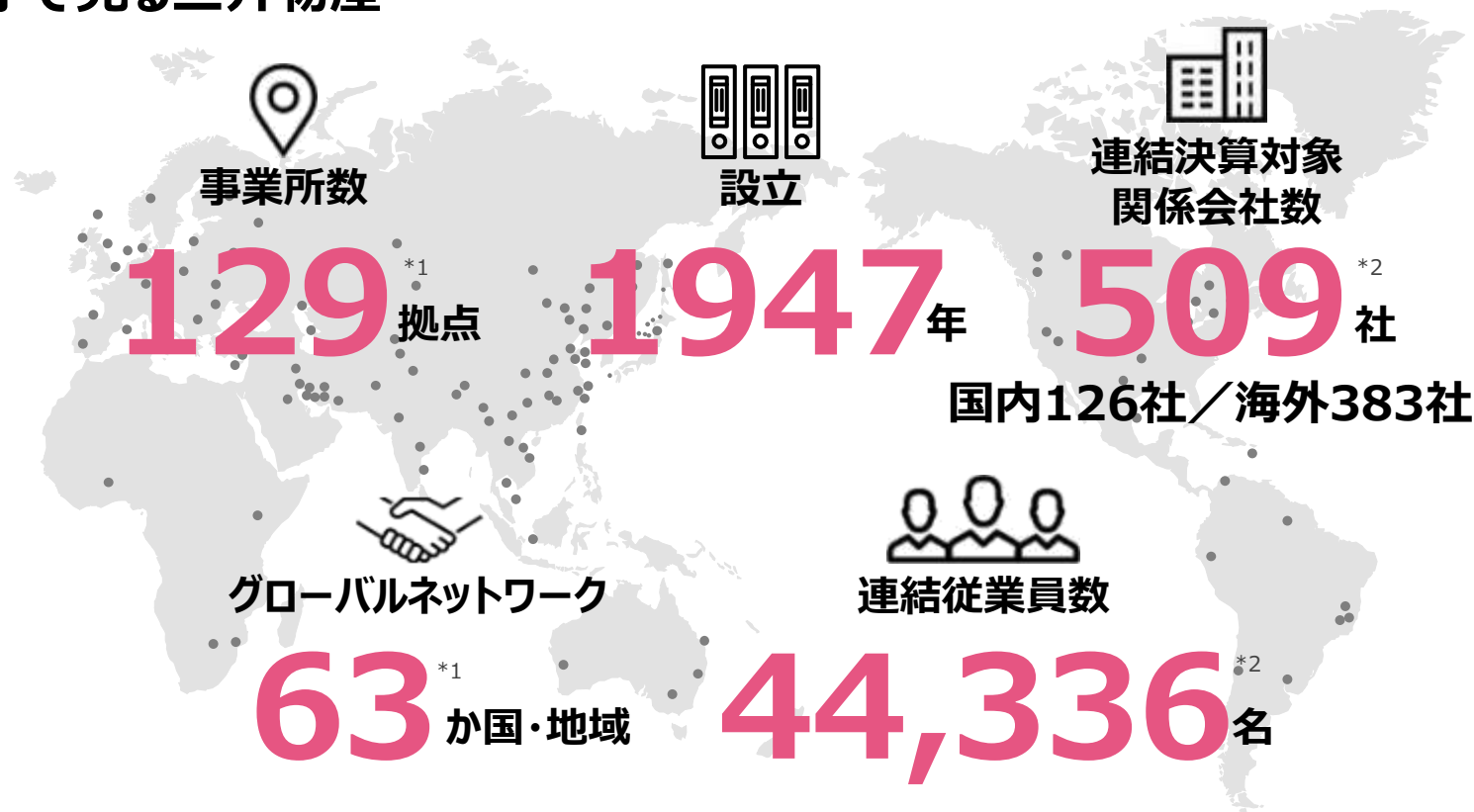
4

成長戦略

5

当地における取り組み

数字で見る三井物産



*1 2022年4月1日時点

*2 2022年3月31日時点

事業分野

◆ 様々な事業での知見や機能を組み合わせることで、より高い価値創造に挑戦



1 会社概要

2 三井物産のビジネスモデルと強み

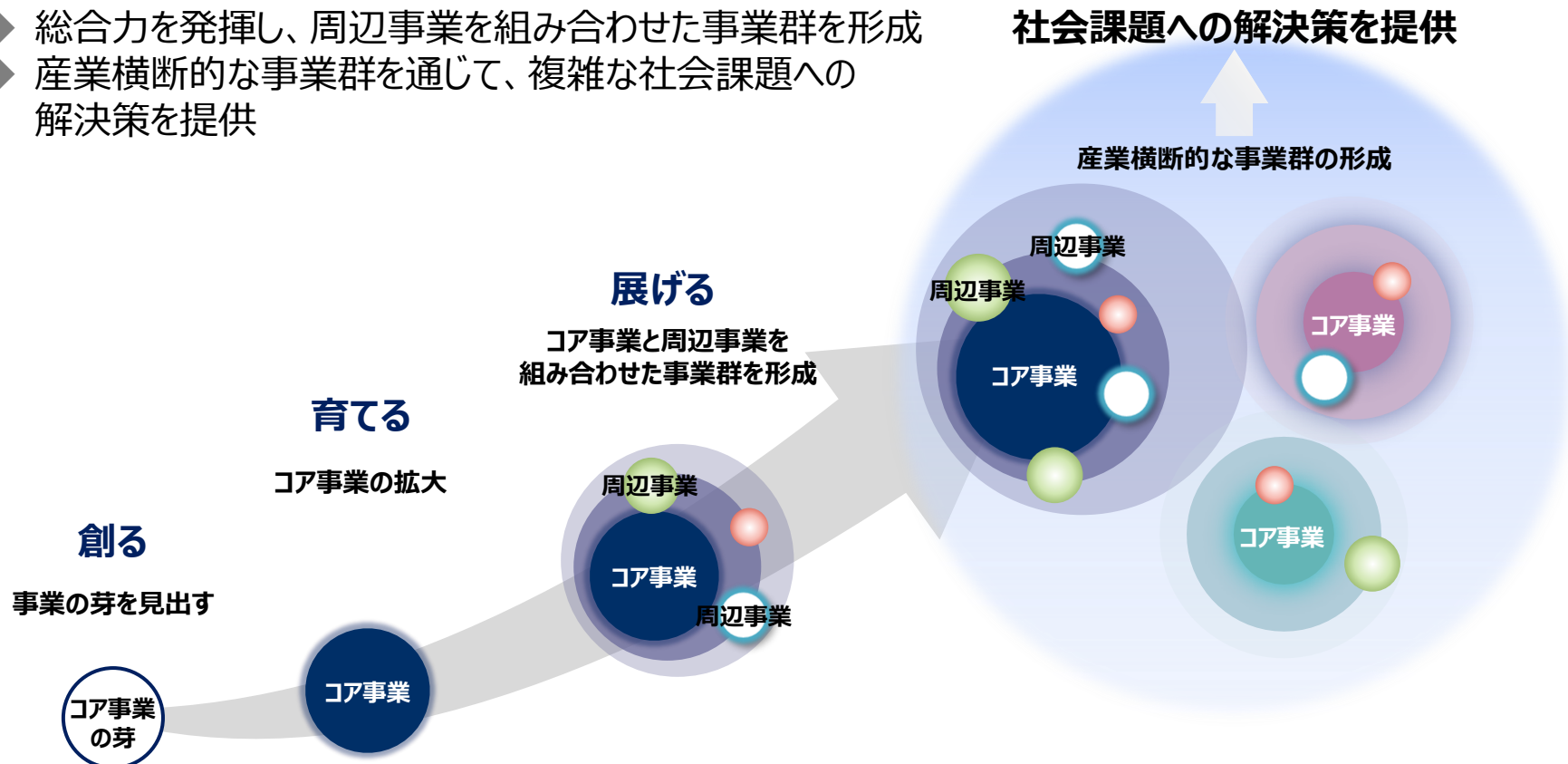
3 業績および株主還元方針

4 成長戦略

5 当地における取り組み

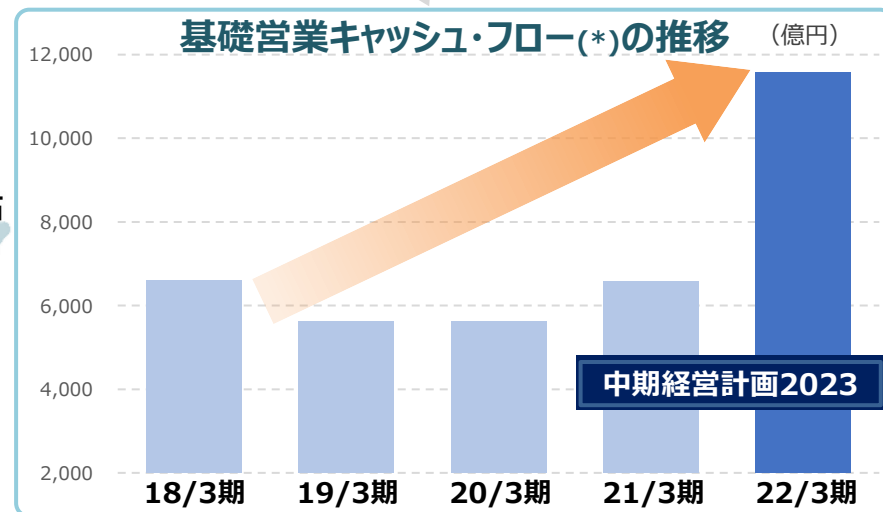
三井物産のビジネスモデル 創る・育てる・展（ひろ）げる

- ◆ 総合力を発揮し、周辺事業を組み合わせた事業群を形成
- ◆ 産業横断的な事業群を通じて、複雑な社会課題への解決策を提供



強み① 事業ポートフォリオ- グローバルかつ幅広い産業に跨る収益基盤

- ◆ 創業以来変革を続けてきたグローバルに広がる事業ポートフォリオ
- ◆ 厳しい事業環境時の下方耐性と、回復時のアップサイドの取り込みにより力強いキャッシュ創出力を実現



(*) 当社の定量目標指標で、営業活動に係るキャッシュ・フローから運転資本の増減に係るキャッシュ・フローとリース負債の返済による支出額を除いたもの

強み② 事業ポートフォリオ- 組み合わせによる新たな価値創造

◆ 長年取り組んできたコア事業から得た知見・機能・ネットワークを組み合わせた価値創造

事例：脱炭素社会に向けたエネルギーtransitionの推進



(*) CCUS=Carbon dioxide Capture, Utilization and Storage : 分離・貯留したCO2を利用する取り組み
Copyright © MITSUI & CO., LTD. ALL RIGHTS RESERVED.

強み③ 人材とそれを活かす企業文化（「人の三井」と「自由闊達」）

- ◆ 新たな価値創造に向けて挑戦する自立的な「個」の集団
- ◆ 多様な「個」が自由に発想し、その発想を受け止め、行動と成長を後押しする企業文化
- ◆ ビジネスノウハウの伝承を通じ、継続性と発展性を担保

海外派遣プログラム活用人数

約 **3,600** * 名（累計）

現地採用職員 ライン長登用数

68 * 名

キャリア採用比率 （全採用者対比）

33 * %

※ 2022年3月末時点

伝承されたビジネスノウハウ

五輪書

案件形成・事業運営時の良質化に向けたフレームワーク、マインドセット、留意点

過去事例集 / Good Practice

五輪書の教訓に基づく具体的な事例集
天然ガス焚きIPP、自動車部品製造、ウラン鉱山、銅鉱山、菜種搾油・精製事業、オフィスビル再開発、計30件
さらに五輪書に照らしたGood Practiceとなる案件を定期的に追加・共有

ザ・資源投資

実体験に基づく金属資源事業における案件選定～撤退各ステージでの成功/失敗事例、考察、今後へ向けた教訓のまとめ

M&A/PMI 企業価値向上プラットフォーム
M&Aと企業価値向上関連ノウハウ・マニュアルを一元化する社内プラットフォーム

LNG講座
LNGの技術知識から上流・中流事業におけるプロジェクトマネジメントまで幅広く解説

プロマネKnowledge Sharing
大型プロジェクトにおけるコスト・スケジュール・スコープなどマネジメントの要諦を詳細解説

「ベンチャー投資の実務一発掘、選別から回収まで」(書籍)
日本経済新聞出版(現日経BP)発行、三井物産業務部編集
投資先の企業価値向上のための米国流ノウハウの公開

映像 再生可能エネルギーの取り組み

気候変動という社会課題の解決に貢献するため、
グローバルに太陽光発電事業に挑戦する当社社員の姿をご覧ください。



三井物産株式会社 プロジェクト本部

平野 里沙

1

会社概要

2

三井物産のビジネスモデルと強み

3

業績および株主還元方針

4

成長戦略

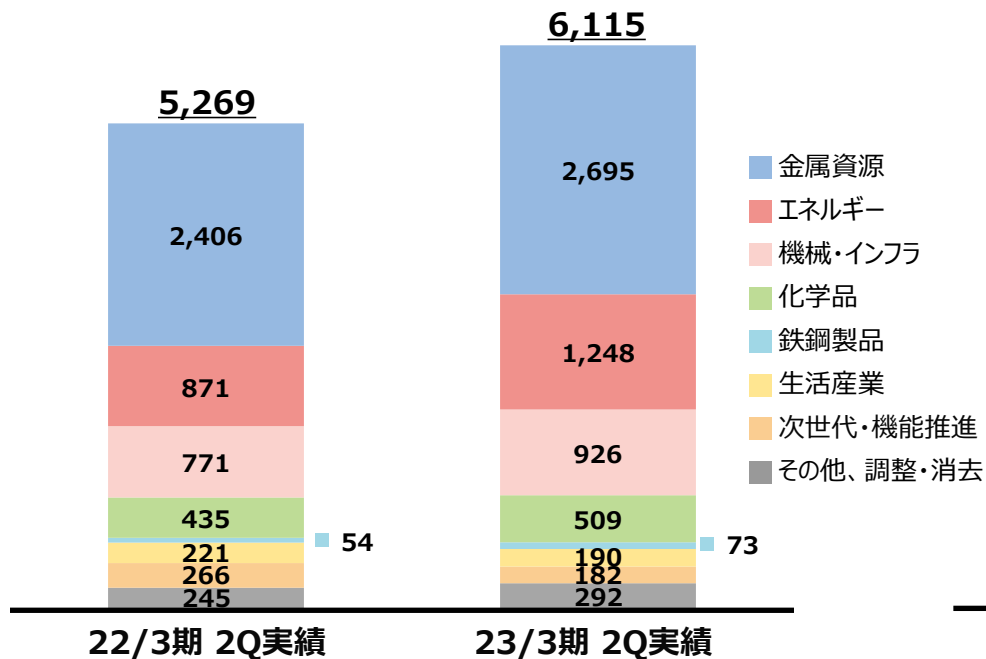
5

当地における取り組み

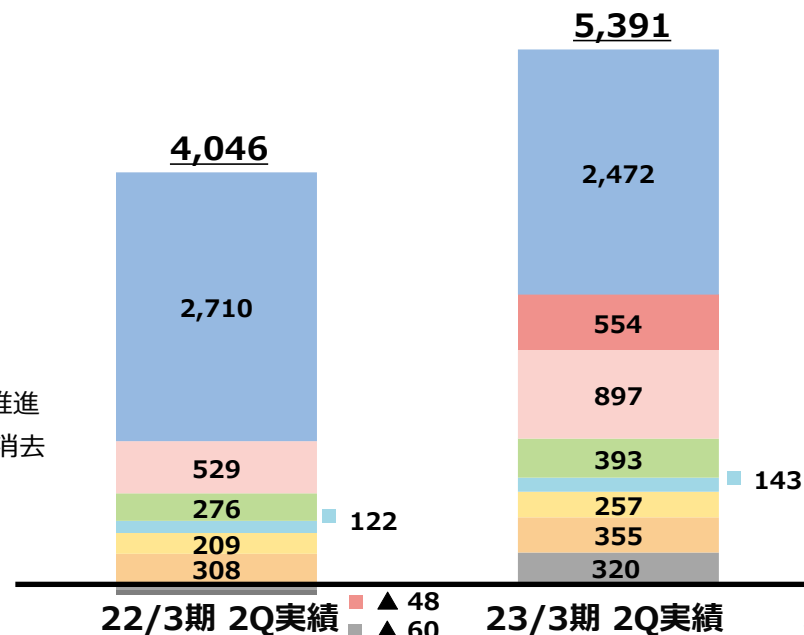
2023年3月期 第2四半期実績

- ◆ 基礎営業キャッシュ・フロー、当期利益ともに上半期として過去最高を更新
- ◆ 各セグメントにおいて事業計画に対して順調な進捗率

基礎営業キャッシュ・フロー (単位：億円)

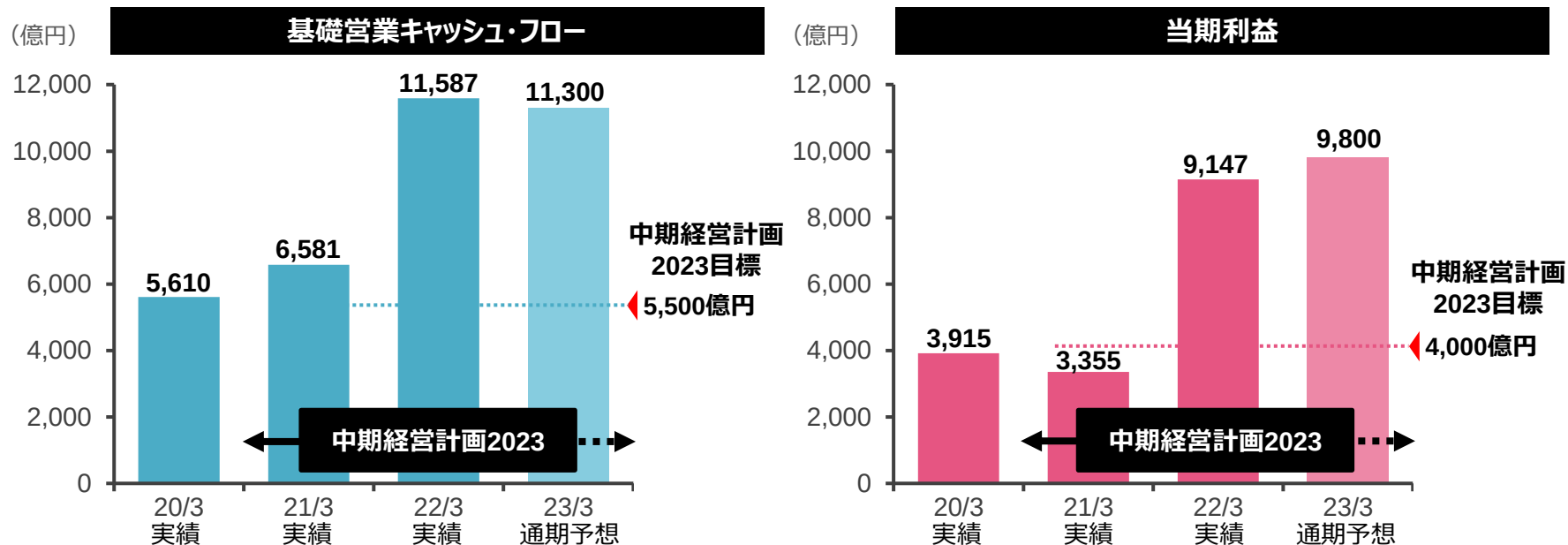


当期利益 (単位：億円)



2023年3月期 通期業績予想

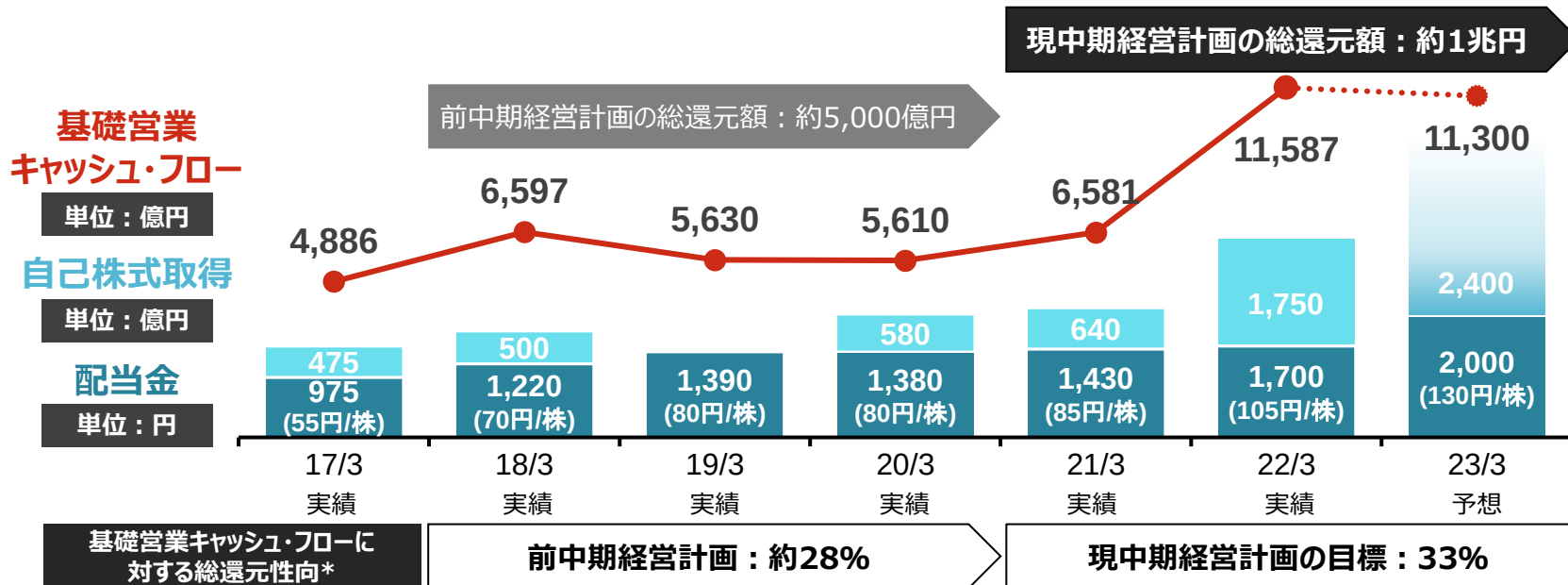
- ◆ 通期業績予想は、上半期の順調な進捗を受け、基礎営業キャッシュ・フロー、当期利益ともに上方修正
- ◆ 過去最高益を達成した2022年3月期と同様、現中期経営計画の目標を大幅に超過達成する見通し



(*) 当社の定量目標指標で、営業活動に係るキャッシュ・フローから運転資本の増減に係るキャッシュ・フローとリース負債の返済による支出額を除いたもの

株主還元方針

- ◆ 現中期経営計画3年間の累計基礎営業キャッシュ・フローに対し、総還元性向の目標は33%
- ◆ 2023年3月期の下限配当を130円/株（前期比+25円/株）に増配、また2022年11月より、新たに1,400億円を上限とする自己株式取得を開始（～2023年2月末）
- ◆ 増配と自己株式取得により、3年間累計の総還元性向は通期業績予想に対して33.7%となる見込み



(*) 株主還元総額÷基礎営業キャッシュ・フロー
Copyright © MITSUI & CO., LTD. ALL RIGHTS RESERVED.

1

会社概要

2

三井物産のビジネスモデルと強み

3

業績および株主還元方針

4

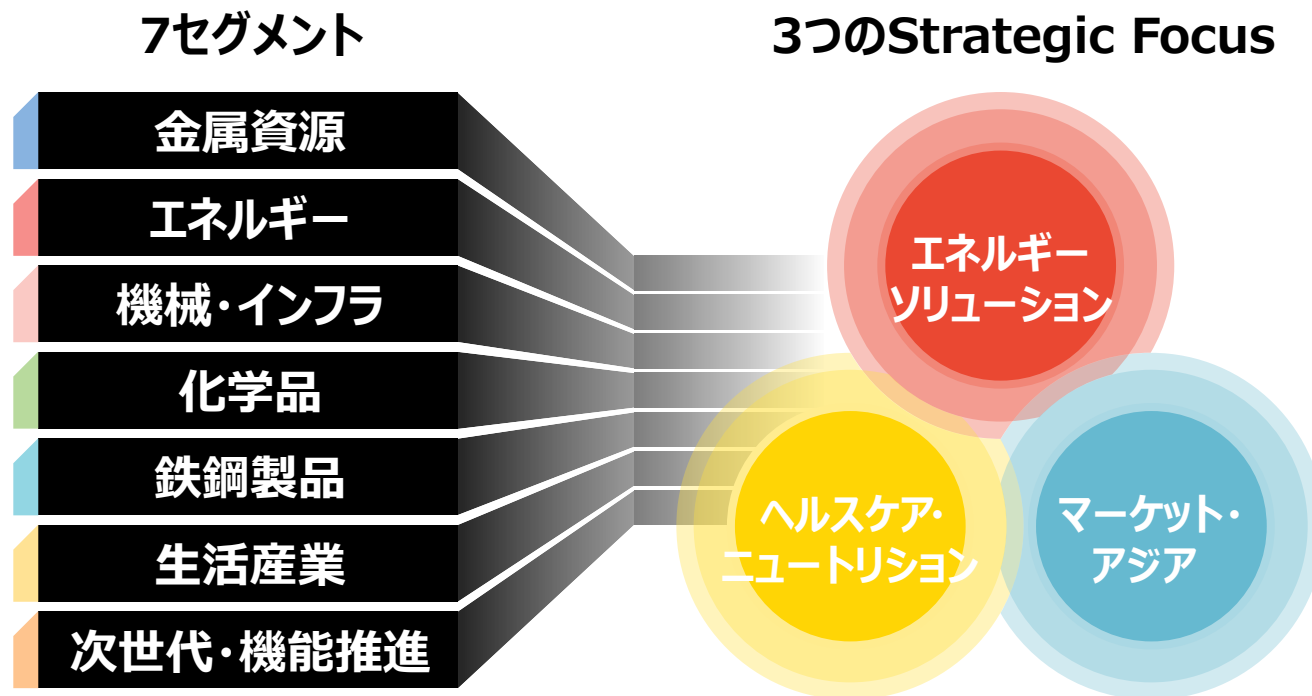
成長戦略

5

当地における取り組み

Strategic Focus（戦略的注力領域）

◆ 7つの事業セグメントの知見や機能を組み合わせ、価値創出に注力する領域をStrategic Focusと特定



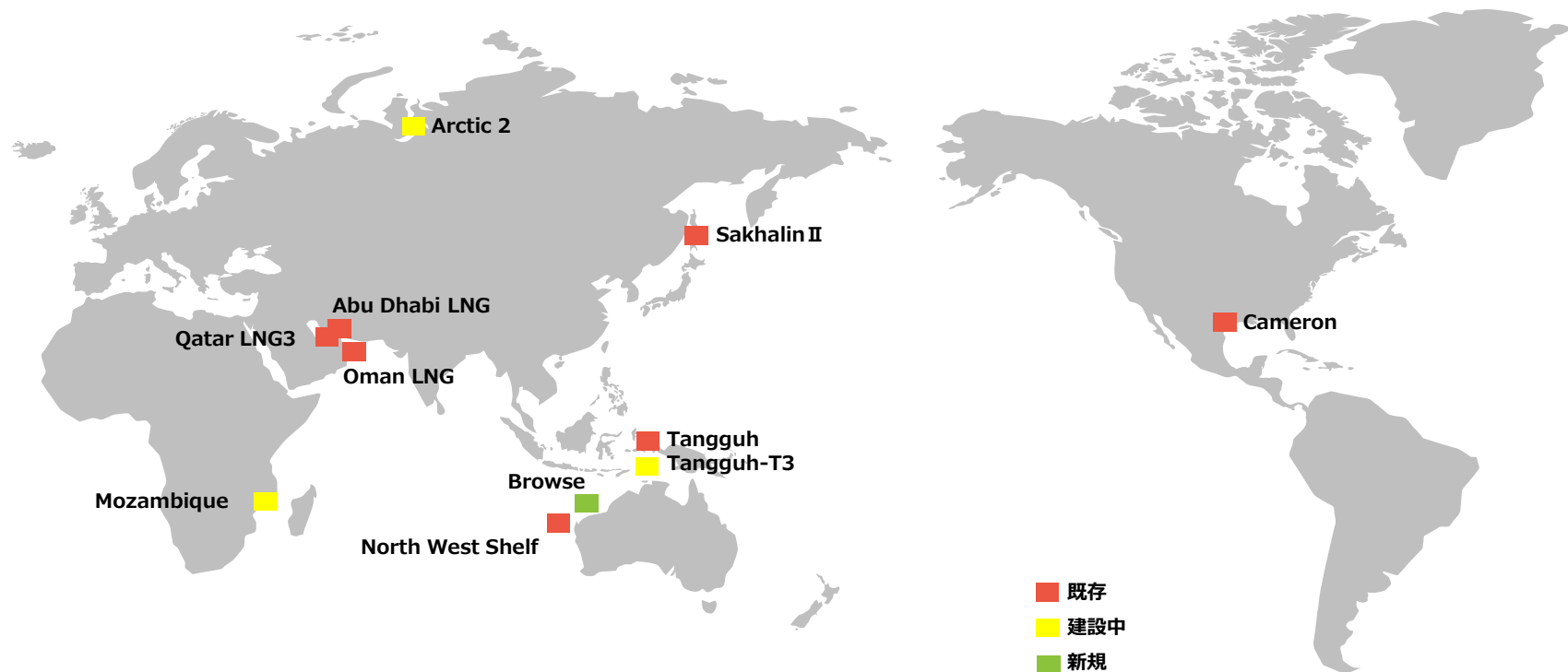
Strategic Focus① エネルギーソリューション

◆ 当社らしいエネルギー・トランジションの実現に向け、次世代領域の取り組みを加速



Strategic Focus① LNG資産ポートフォリオ

- ◆ 地域多様性のあるLNGポートフォリオを形成し、日本を始めとするグローバルなLNG安定供給に寄与
- ◆ 既存事業の競争力強化、資産リサイクル等を通じ当社ポートフォリオを更に良質化



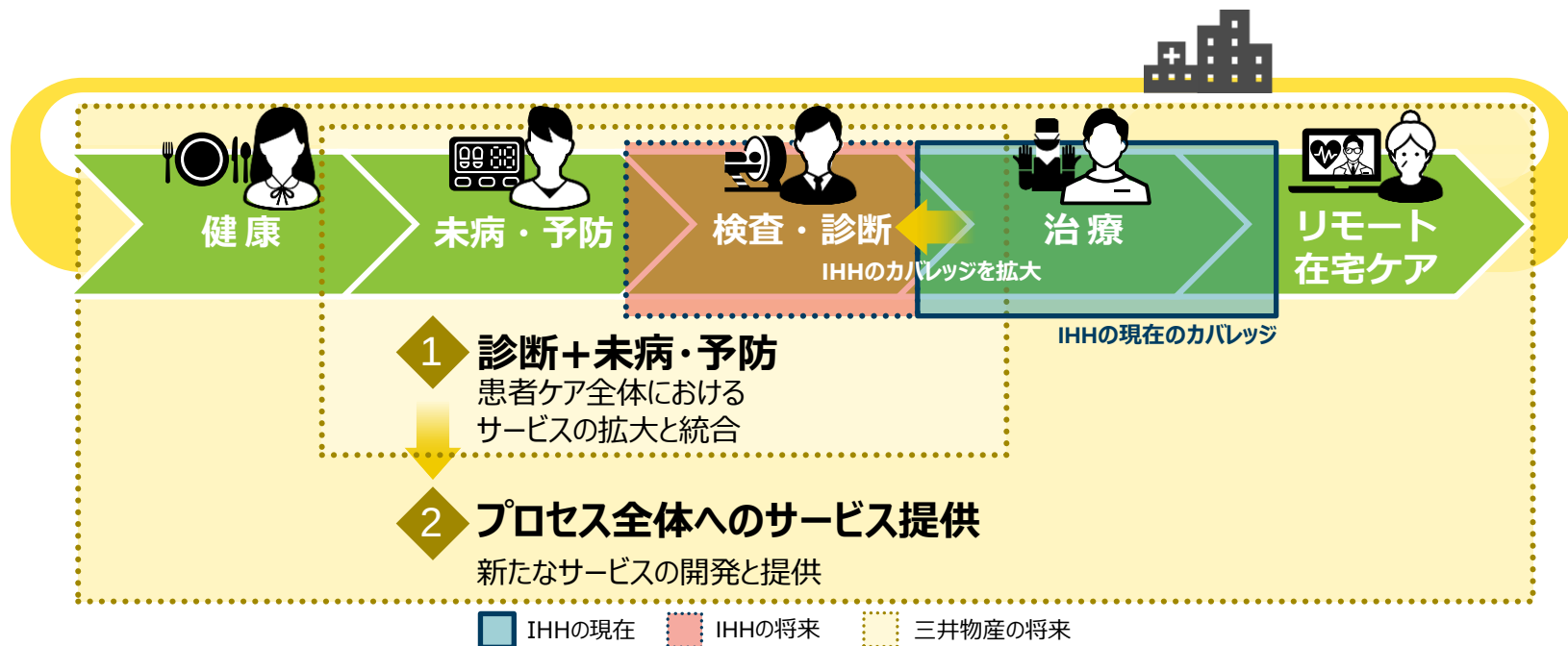
Strategic Focus① クリーンアンモニア事業への取り組み

- ◆ 長年にわたり育て、展げてきたコア事業で培った知見・機能、強固なネットワークを活かし、世界中で事業化に向けた検証を開始



Strategic Focus② ヘルスケア・ニュートリション 事例：ウェルネス戦略

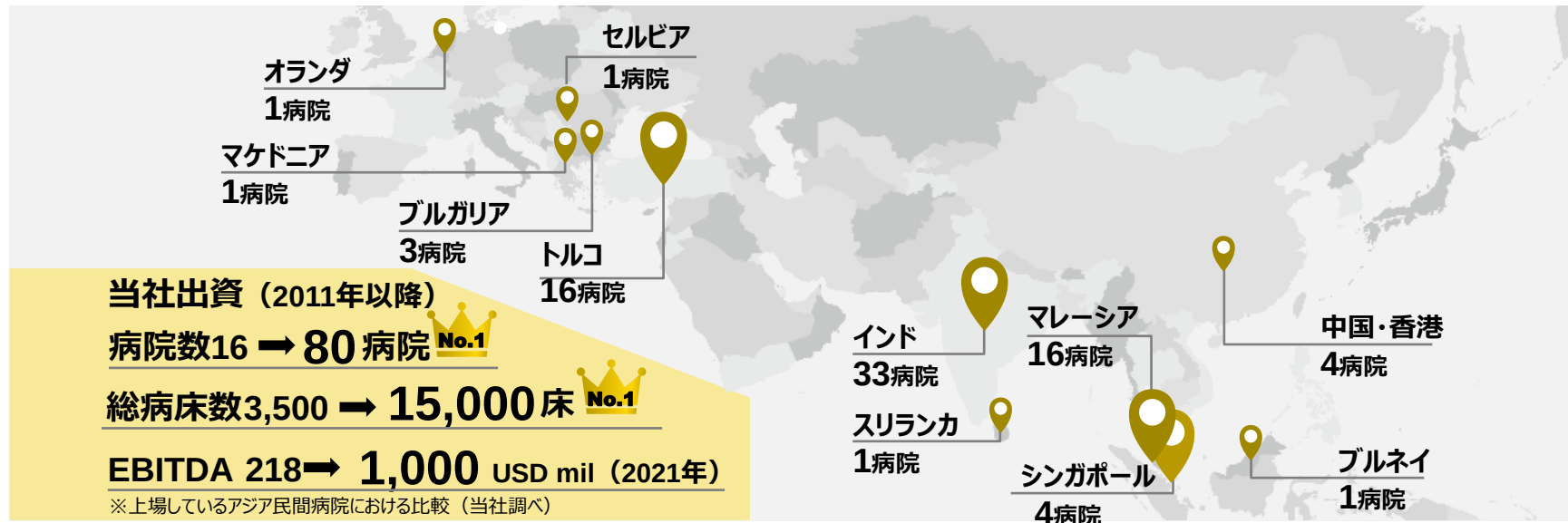
- ◆ 治療を軸としたヘルスケアから未病・予防、そして健康から在宅ケアも含むウェルネスへ
- ◆ プロセス全体へと対象を広げたサービスの開発・提供を目指す



Strategic Focus② ヘルスケア・ニュートリション事業 基盤アセット：IHH

◆ IHHは経営基盤強化により2021年の業績は過去最高益を達成

- ▶ オンライン診断などのデジタル化の推進
- ▶ 集中購買などのオペレーション改善
- ▶ ノンコア事業の整理と成長へのリソースシフト
- ▶ コロナ関連サービスの取込み



1

会社概要

2

三井物産のビジネスモデルと強み

3

業績および株主還元方針

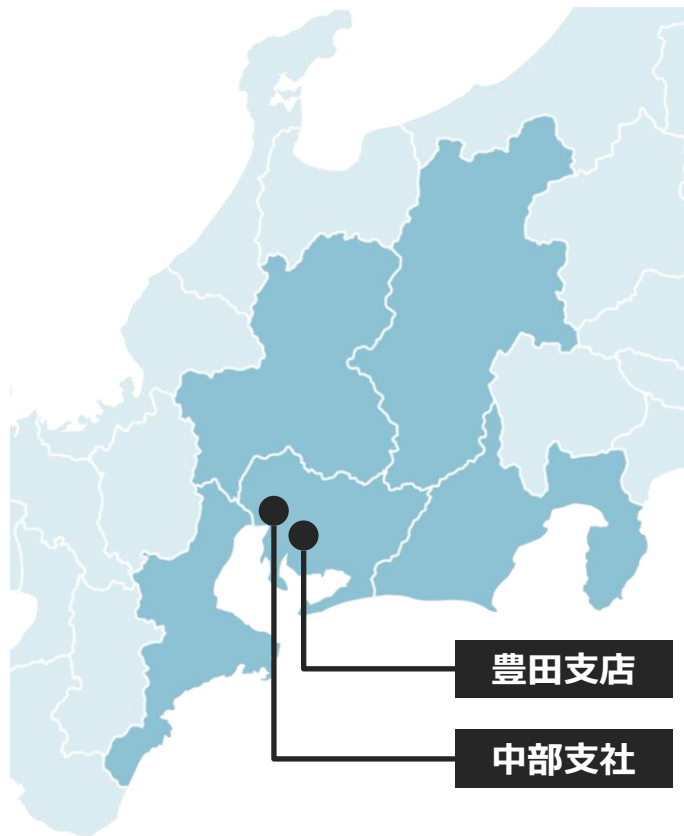
4

成長戦略

5

当地における取り組み

中部支社概要



管轄地域

愛知、岐阜、三重、静岡、長野

人員 (2022年10月1日現在)

三井物産単体	71名
中部地区連結子会社	578名

管轄地域に営業拠点を置く連結子会社

20社

中部地域に於ける主な三井物産グループ事業

埠頭

本船荷役・保管・出荷



食料コンビナート

三井名南コンビナート



安心・安全な食料確保
飼料、糖アルコール等の製造・販売

自動車関連



エンジニアリング事業

素材・部品提供

部品の設計・開発・製造

サービス事業

スポーツ・エンタテインメント
支援ビジネス



中日ドラゴンズ
シーホース三河

スポーツ・エンタテインメント
支援ビジネス

脱炭素への取り組み

CO2の可視化

Webプラットフォーム



- ✓ 事業所単位のCO2排出量を可視化
- ✓ 可視化を入口に、脱炭素に向けた取り組みを支援



- ✓ 製品・サービス単位のCO2排出量を算定

CO2の抑制

太陽光PPA・ソーラーカーポート

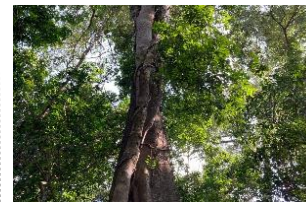
- ✓ 施設の敷地内や屋根などのスペースに太陽光パネルを設置、発電し販売する取り組み
- ✓ 中部支社では岐阜県の再エネ関連事業者と小型EVを活用したソーラーカーポート取り組みも開始



CO2の吸収

森林クレジット

- ✓ 三井物産は全国74か所に、合計約44,000haの社有林を保有
- ✓ 森林が吸収するCO2のクレジット化にも取り組み中



ヘルスケア分野への取り組み

健康経営ソリューションの提供

- ✓ 「みんなの家庭の医学」Web版、アプリ版をリリース
- ✓ 自社開発のストレスチェック
- ✓ 健康経営ソリューションの提供



保健同人フロンティア
HOKENDOHJIN-FRONTIER

パーソナルヘルスレコードの管理

- ✓ 医療機関向け画像管理システム
- ✓ 提携医療機関からの医療情報（画像、検査結果、薬情報等）をアプリで管理、共有



キッズドクター

- (中部地区含む全国)
- ✓ チャット健康相談
 - ✓ オンライン診療

- (名古屋市他、愛知県内の一部の地域)
- ✓ 名鉄タクシーと連携した配車サービス
 - ✓ 医師による往診



キッズドクター



NORTH STAR

【メール配信サービスご登録のご案内】

ご登録頂くと、当社ウェブサイトに掲載される当社の重要な案件内容を、公表と同時に自動でメール受信できます。

携帯・PCアドレスの登録が可能です。

お手持ちの携帯やタブレットなどで下記のバーコードを読み取って頂くか、当社ウェブサイトの「IRメール配信サービス登録画面」にてご登録下さい。



IRメール配信サービス登録画面

<https://www.mitsui.com/jp/ja/ir/support/mail/index.html>

当社ウェブサイト 投資家情報ページ

<https://www.mitsui.com/jp/ja/ir/index.html>

【ご注意】

本資料にて提供されているデータや将来予測は、本資料の発表日現在の判断や入手している情報に基くもので、種々の要因により変化することがあり、これらの目標や予想の達成、及び将来の業績を保証するものではありません。また、これらの情報が、今後予告なしに変更されることがあります。従いまして、本資料およびこれらの情報の利用は、他の方法により入手された情報とも照合確認し、利用者の判断によって行なって下さいますようお願いいたします。本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

以下の事象が、当社及び連結子会社の事業、経営成績及び財政状態に悪影響を及ぼす可能性があります。

<2022年3月期末に有価証券報告書で特定した重要なリスク>

- 事業投資リスク
- カントリーリスク
- 気候変動に関するリスク
- 商品価格リスク
- 為替リスク
- 保有上場株式の株価リスク
- 与信リスク
- 資金調達に関するリスク
- オペレーショナルリスク
- 役職員による法令及び社内規定の遵守違反に関するリスク
- 情報システム及び情報セキュリティに関するリスク
- 自然災害、テロ・暴動遭遇、感染症等によるリスク

<それ以外の主要なリスク>

- 当社固有のリスクではない、一般的なリスク
 - 世界マクロ経済環境の変化によるリスク
 - 法的規制に関するリスク
 - 競合リスク
 - 人的資源の制約に関するリスク
- リスクとして認識はしているが、影響に重要性がないもの
 - 金利リスク
 - 確定給付費用及び確定給付債務に関するリスク
- IFRSに基づく連結財務諸表の作成にあたっての前提条件の置き方による影響

なお、旧三井物産と現在の三井物産には法的継続性はなく、全く別個の企業体です。

360° business innovation.



mitsubishi & co.

当社サハリンⅡ事業について（2022年8月31日付けリリース）

当社は、2022年6月30日付けロシア大統領令（第416号）及び同年8月2日付け政府令（第1369号）に基づき設立された、サハリンⅡ事業の新運営会社であるSakhalin Energy LLC社（以下LLC）の持分引受に関する申請を同年8月25日にロシア政府に提出しました。

同年8月30日（現地時間）、ロシア政府より承認された向けの通知を受けましたのでお知らせいたします。今後、LLC持分引受に関する協議を進める予定です。なお、2023年3月期連結業績見通しは2022年5月2日にお知らせしたもののから変更はありません。

当社は、国際社会が取る制裁措置を順守すると共に、安定供給の観点も踏まえ、日本政府や事業パートナーを含むステークホルダーとも今後の方針に関し協議を続け、適切に対応していく所存です。

ロシアLNG事業による当社決算への影響

- ◆ 大統領令に基づき設立されたサハリンⅡの新運営会社の持分引受けが決定。一方、同社の出資者構成は確定しておらず、不確実性の高い状況は継続
- ◆ 引き続き日本政府や事業パートナーを含むステークホルダーとも協議の上、適切に対応
- ◆ サハリンⅡへの投資の公正価値評価は、その他包括利益を通じた変動であり、当期利益及び基礎営業キャッシュ・フローに影響しない。9月末公正価値は為替変動等により6月末比増加

	22年9月末残高*2	22年6月末残高*2	22年3月末残高*2
投資・融資	1,126億円 (内、サハリンⅡ投資 973億円)	1,056億円 (内、サハリンⅡ投資 902億円)	2,225億円
保証	1,705億円	1,857億円	1,822億円
投融資保証*1	2,831億円	2,913億円	4,047億円
債務保証引当	▲190億円	▲195億円	▲181億円
Net残高	2,642億円	2,718億円	3,866億円

*1. 投融資保証は、債務保証引当をネットしないグロス金額

*2. Arctic LNG2に係る保険や第三者との取り決めを通じた求償・請求の見込み額考慮前のグロス金額